

平成30年度 江東中 学校評価(分析と改善策)

評価期間:平成30年4月1日～12月31日

評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

| 評価項目 | 領域 | 中期目標 | 短期目標 | 担当 | 具体的な取組 | ○評価の観点 ●評価の指標 | 教職員評価 | 達成状況 | 改善策と今後の方針 | 学校評価委員 | | |
|-----------|--------------------------|------------------------------|---------------------|----|--|---|--|--|--|---|------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | 評価 | 所見 | |
| 学習指導 | 確かな学力の育成 | 確かな学力の育成を図り、進路保障・学力保障の充実に努める | 「わかる授業」の推進 | 研究 | 1 | ・授業デザインシート等を活用して、生徒につけたい4つの力を意識した授業づくりを推進する。 | ○生徒につけたい4つの力を意識した授業づくりを行ったか。 ●教職員アンケート、生徒アンケート肯定的評価80%以上 | B | 研究授業や示範研の授業をとおして、教職員の生徒につけたい4つの力の意識はかなり高くなった。教職員評価は、4つのうち2つは87.5%。 | 教職員の評価が低かった「自分の考えを論理的に発表する学習」や「学んだことを広げ深める工夫」をさらに意識して行う。 | B | ・自ら考え工夫する力をもっとつけてほしい。(生徒) |
| | | | 基礎・基本の徹底 | | 2 | ・教科の特性に応じて、基本事項の定着を図る取組を行う。 ・学習会や補習等、教科の枠を越えた取組を行う。 | ○各教科でまたは教科をこえて基本事項の定着を図る取組を行ったか。 ●教職員アンケート肯定的評価80%以上 | B | 生徒の評価(生徒の困っていることへの教員の対応)は84.9%と高いが、教職員の評価は62.5%。定着のよくない内容は基礎基本に戻って繰り返し行うようにしているが、限られた時間の中で全ての補充は難しいのが現状。 | テスト等で生徒の達成状況の把握に努め、弱みの克服の方法を検討する。また、教育相談や自学ノートを点検しながら、個々に家庭学習の方法を助言、指導する。 | B | ・自学ノートを有効に活用してほしい(生徒) ・自学ノートの点検を充実させてほしい(教) |
| | | | 家庭学習習慣の定着 | | 3 | ・様々な手だてを講じて自主学習ノートの定着・充実を図る。 ・自主学習ノート以外にも、個々の実態に即した課題の出し方を工夫する。 | ○家庭学習が定着できたか。 ○自主学習ノートの定着・充実が図れたか ●教職員アンケート、保護者アンケート肯定的評価80%以上 | C | 生徒の家庭学習に対する意識は学年が上がるにつれて高くなっているが、実際に実践できている生徒は全校で50～60%にとどまっている。 | 家庭学習の内容を例示する。家庭学習につながる授業を工夫する。(例:小テストの実施、課題の提出) 自学ノートの展示を行い、生徒がお互いに工夫例を参考にさせる。 | C | ・家庭でも習慣が身につくようにする(家庭・生徒) ・生徒の肯定的評価を80%代に |
| | | | 言語活動(コミュニケーション力)の充実 | | 4 | ・各教科の授業や活動でのペア学習やグループ学習など、各自で工夫した取組を行う。 | ○ペア学習やグループ学習はうまく機能できたか。 ●教職員アンケート、生徒アンケート肯定的評価80%以上 | A | 各授業でペアやグループの活動を積極的に行うことができた。教職員87.5% 生徒84.9% | 授業参観等とお互いにペアやグループ学習の手法を共有し、さらに効果を上げることを目指す。 | A | ・取組の継続を望む(教職員) |
| | | | 学校図書館の活用を図る | | 5 | ・調べ学習や言語活動に学校図書館を活用し、司書教諭や図書ボランティアと連携を図る。 | ○各教科等で年1回以上、学校図書館を利用したか。 ●教職員アンケート肯定的評価80%以上 | C | 教職員アンケートQ10の肯定群は28.6%と十分ではなかった。 | 年間計画の中に図書館利用できる単元を位置づける。学習内容に関する本の紹介を行うこともよい。 | C | ・本を読む習慣を身に付けてほしい(生徒) |
| ふるさと教育 | ふるさとへの愛着と誇りを育てる教育活動を実施する | ふるさと・キャリア教育推進事業を充実させる | 勝田 | 6 | ・地域の資源を生かした体験活動、表現活動を推進する。 | ○自己課題を持たせ、講師との交流を通して課題解決を図らせることができたか。 ●生徒の振り返り、感想文 | A | 生徒アンケート肯定的評価98%。地域講師と活動をすることができたが、自己課題の解決には至っていない。 | 少ない時間で文化祭での発表が難しい分野もあり、来年度見直しを検討中。自己課題の設定・解決の流れを確立させたい。 | A | ・取組の継続を望む(教職員) | |
| | | | 佐々木 | 7 | ・地域講師による「ふるさと江津の食材を活かした料理教室」を実施する。 | ○江津の食材を意識し、主体的に調理実習に取り組むことができたか。 ●生徒の振り返り、感想文 | A | 地域講師のご指導ご協力により、生徒は江津の肉・野菜等の良さを実感し、それを生かしていきいきと調理実習に取り組むことができた。 | 地域講師とふれあい、食を通してふるさとに思いを持ち、心身の成長を育み、食の実践力を伸ばすこの活動を継続していきたい。 | A | ・取組の継続を望む(教職員) | |
| | | | 松島 | 8 | 職場訪問(1年)を実施する | ○自らの進路選択に向けて主体的に体験活動に取り組むことができたか。 ●生徒の振り返り | A | 地域で働く方々にインタビューでき、地域に関心を向けるきっかけになった。 | 3年間を見通したキャリア教育、ふるさと教育を推進していく。 | A | ・取組の継続を望む(教職員) | |
| | | | 土井 | 9 | 修学旅行の事前、及び旅行中における職場訪問(2年)を実施する。 | ○自らの進路選択に向けて主体的に体験活動に取り組むことができたか。 ●生徒の振り返り | C | 生徒アンケート肯定群62.5%。職場訪問が直接的に生徒の進路選択に向けての体験として深めることができなかったと考える。 | 来年度も修学旅行における企業訪問等を計画しているが、3年間のキャリア教育の視点に立った計画的な推進が求められる。 | B | 活動の意味をしっかりと理解させると良いのでは(教職員) | |
| | | | 勝田 | 10 | 職場体験(3年)を実施する。 | ○自らの進路選択に向けて主体的に体験活動に取り組むことができたか。 ●生徒の振り返り | A | 生徒アンケート肯定的評価100%。事前準備から主体的に取り組む事業所からの評価も高かった。 | 通勤方法で公共交通を利用しているが、便数が少なく苦しい面がある。江東地区で済ますことも検討。 | A | 工業団地の企業も増加しているので場所の検討を(教職員) | |
| | | | 勝田 | 11 | 黒松海岸清掃を実施する。 | ○海岸清掃を通して、地域の自然を愛し、地域に貢献する気持ちが育まれたか。 ●生徒の「振り返り」から | A | 生徒振り返り肯定的評価100%。地域の持つ観光資源を維持することの大切さに気づくことができた。 | 黒松自治会からの要望もあり、地域と連携しながら、継続的な活動にしていきたい。 | A | ・取組の継続を望む(教職員) ・他の候補地の検討も | |
| 生徒指導・進路指導 | 豊かな心や感性の育成を図る | 生命尊重を基盤にした心と体の健康教育の推進 | 佐々木 | 12 | 島根県助産師会助産師を講師にしたバースデープロジェクトの取組を行う。 | ○人の誕生を通し生命尊重の精神を養い、自他を大切にするとともに、大人に向かって主体的に心と体の健康づくりを考えることができたか。 ●生徒の振り返り ●参加された保護者の感想 | A | 生徒は命の尊さを意識し、家族・周囲への感謝の気持ちを膨らませた。「今後自他を大切に、自ら心身の健康づくりをしていきたい」と振り返る生徒が多かった。保護者の参加も割に多く、大切な取組で今後も続けてほしいとの要望が多かった。 | 県の事業に応募して実施していただき、人権教育・性に関する教育として効果的であった。今後は更に保健学習等との関連を持たせながら、学年を固定するなどして計画的に実施していきたい。 | A | ・取組の継続を望む(教職員) | |
| | | | 室安 | 13 | ・別業の作成、授業公開、研修会等を通して道徳の授業の充実を図る。 ・教育活動全体を通して、豊かな心や感性を育む実践を行う。 | ○教育活動全体を通じて、教職員間の共通理解のもとで、道徳教育を充実させることができたか。 ●(生徒による)振り返り 意識調査など | B | 教職員アンケート肯定群71.4%。職員研修や授業公開、年間計画・別業の作成等を通して教科化に向けて準備を進めてきているが、生徒の道徳的実践意欲と態度に焦点を当てる必要がある。 | 今後は、ねらいに対してどのようなアプローチをしていくかを検討する時間の設定や、生徒の豊かな心や感性を育むための積み重ねが行えるようにしていきたい。 | B | ・取組の継続・充実を望む(教職員) | |
| | | | 生徒指導 | 14 | ・各学年で、集団作りをねらった取組を行う。 ・SCを活用した人間関係づくりの授業を行う。 | ○SCを活用した人間関係づくりの授業を行ったか。 ○各学年で、集団作りをねらった取組を行ったか ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | A | 各学年でSCを活用し、実態に沿った人間関係づくりの授業を実施した。また、集団作りをねらった授業(学級活動)も実施した。生徒は自分達の良さ・課題に気付き、人権意識を高めることができた。教職員アンケートQ22肯定群88.9% | 小規模校においては人間関係の固定化という課題やそこから発生するトラブルが少なくない。その予防の意味からもこのような、生徒のコミュニケーション力や人間関係力を育てる授業や活動を継続していきたい。 | A | ・取組の継続・充実を望む(教職員) | |
| 生徒指導・進路指導 | 人権・同和教育の推進を組織的に行う | 進路保障に向けた取組 | 長谷田 | 15 | ・職員研修や人権同和問題学習の授業公開・参観を実施する。 | ○職員研修、授業公開・参観を行ったか。 ●職員研修の実施と各学年1回以上の同和問題学習の公開・参観。 | A | 教職員アンケート肯定群80% 今年度職員研修において人権ミニリレーを実施することができた。また、3学期に同和問題学習に関する授業を行い、公開する予定である。 | 来年度は、人権ミニリレーをより充実させていきたい。また、各学年単位で人権・同和教育の授業公開をしたいと考えている。 | A | ・取組の継続・充実を望む(教職員) | |
| | | | 山内 | 16 | ・給付型奨学金の紹介と手続支援を行う。 ・職員に対し進路保障にかかわる研修会等や情報の提供を行う。 | ○給付型奨学金の紹介と手続の支援を行ったか。 ○進路保障にかかわる研修会等や情報の提供を行ったか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | A | 教職員アンケート肯定群100%。給付型奨学金の紹介と進路保障にかかわる研修会等の情報提供を行うことができた。 | 「そう思う」と回答した割合より「だいたいそう思う」と回答した割合が高い。今後も情報提供等を丁寧に行う必要がある。 | A | ・取組の継続・充実を望む(教職員) | |

平成30年度 江東中 学校評価(分析と改善策)

評価期間:平成30年4月1日～12月31日

評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

| 評価項目 | 領域 | 中期目標 | 短期目標 | 担当 | 具体的な取組 | ○評価の観点 ●評価の指標 | 教職員評価 | 達成状況 | 改善策と今後の方針 | 学校評価委員 | | |
|-----------------|----------------|-------------------|--|---|--------------------|--|---|--|--|---|-------------------|-----------------------------|
| | | | | | | | | | | 評価 | 所見 | |
| | | 生徒指導・教育相談体制の充実を図る | 進路保障の連携体制の確立 | 山内 | 17 | ・校内委員会の定期開催を推進。 ・校内における職員間の連携を図り、全校体制で進路保障に取り組む土壌作り。 ・校外における関係機関との連携 | ○校内委員会の定期開催を推進できたか。 ○進路保障は全校体制で取り組む土壌作りができたか。 ○校外において、関係機関と連携を図れていたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | A | 教職員アンケートQ18肯定群87.5%。数値だけみると連携体制を確立できているが、「そう思う」と回答した割合より「だいたいそう思う」と回答した割合が高い。これは、定期的な校内委員会の開催が不十分であったためであると考ええる。 | 何かが起こってから事後対応のケースを減らすためにも校内委員会の定期開催を管理職と相談して校内のシステムとして確立させる。 | A | ・取組の継続・充実を望む(教職員) |
| | | | 一人一人の生徒理解を基盤にした個別指導の徹底 | 生徒指導 | 18 | 人権アンケートやアンケートQ-Uの結果を分析し、個々の生徒指導にあたる。 | ○人権アンケートやアンケートQ-Uの回答から、気になる生徒を把握するなど、いじめ防止に取り組むことができたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | B | 教職員アンケート肯定群77.8%。各学年において、第1回アンケートQUの結果を分析し、その後の取組に生かした結果、各学年において第2回目の結果に改善が見られた。 | 直接的ないじめ防止につながっているとは言いが、QU結果をもとに生徒の状況把握、クラスの間関係の改善に取り組むことができた。 | B | ・取組の継続・充実を望む(教職員) |
| | | | いじめの早期発見・早期対応体制の確立 | | 19 | 教育相談を充実させ、また教職員が連携して生徒の異変に対応する体制を確立する | ○教育相談等を通して教職員が連携して生徒の異変に対応する体制を作ることができたか ●生徒、教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | B | 教職員アンケートQ21肯定群70.0%。毎学期に各学級担任における定期的な教育相談と合わせて、全職員が関わる教育相談を実施した結果、生徒の実態把握に努めることができた。 | 定期的な学級担任による教育相談と合わせて、全職員が関わる教育相談も継続していくことで、生徒の実態把握を進めることができる。 | B | ・取組の継続・充実を望む(教職員) |
| | | | 規範意識・基本的な生活習慣の定着 | | 20 | あいさつ 個人の持ち物の整理整頓 交通安全のルール、自転車の乗り方 | ○生徒の規範意識、基本的な生活習慣が身についたか。 ●生徒、教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | A | 教職員アンケートQ23肯定群77.8%。生徒アンケート92.5%。学校生活において生徒は概ね規範意識を持ち、落ち着いた生活を送ることができている。 | 今後ともあいさつの推進、整理整頓を軸とした基本的な生活習慣の定着に取り組んでいく必要がある。 | A | あいさつ等よくできている。自転車通学生が礼儀正しかった |
| | | | 対教職員、対生徒間の信頼関係の構築 | | 21 | 縦割り班による清掃活動。 体育祭や文化祭、修学旅行などの学校行事。 | ○他学年の生徒や、先生と交流しながら、積極的に活動に取り組んでいたか。 ●生徒、教職員アンケート肯定的評価80%以上 | B | 教職員アンケートQ24 肯定群 70.0%。生徒アンケート83.0%。清掃活動には全校生徒が意欲的に取り組んでいる。各学校行事では、学年を超えて交流し生徒主体で行事を推進することができた。 | 各種行事、清掃活動において、他学年の生徒および教職員が関わる場面を多く設定し、信頼関係を深めていく活動を継続して取り組んでいく必要がある。 | B | 一生懸命取り組んでいた(生徒) |
| 特別支援教育 | 特別支援教育 | 特別支援教育の推進を図る | 職員全体で特別支援教育への理解を深め、効果的な支援を行う | 室安 | 22 | 支援の必要な生徒へのかかわりを通して特別支援教育への理解を深める | ○支援の必要な生徒に対して、教職員全体関わっていく中で、特別支援教育への理解を深めることができたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | B | 教職員アンケートQ25肯定群75.0%。ただし、「あまり思わない」と回答した教員は半数近くいた。校内委員会や情報交換の場は持つことができたが、それ以外の理解啓発の場が必要であると考えられる。 | 会議の場でもっと体制について相談ができるようにする必要がある。 | B | ・取組の継続・充実を望む(教職員) |
| | | | | | 23 | 実態把握、訪問指導、校内委員会などを通じて効果的な支援方法を検討する。 | ○情報をもとにして、支援の必要な生徒に対して効果的な支援ができたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | A | 教職員アンケートQ26肯定群87.5%。とりわけ特別支援学級、通級による巡回指導を受けている生徒については個別の指導計画、教育支援計画をもとに支援・指導の検討を細かく行うことができた。 | 必要な支援について検討したものについては、引き続き定期的に情報交換をおこない、周知ができるようにする。 | A | ・細かく指導されていると思います(教職員) |
| | | | | | 24 | 保護者との連絡を密にとる。 | ○保護者との連携は十分に図れたか。 ●教職員アンケート、保護者アンケート、肯定的評価80%以上 | A | 年度当初の保護者への説明、毎日の家庭連絡帳の交換、定期的な懇談等を通して、保護者との連絡を密にすることができた。 | メディア使用時間等、生活習慣について、もう少し連携、協力ができるような取り組みを検討していく。 | A | ・取組の継続を望む(教職員) |
| 組織運営・保護者や地域との連携 | 信頼される開かれた学校づくり | 危機管理体制を確立する | 勤務規律の確保と教職員の危機管理能力の向上を目指す研修の充実 校務分掌を生かした学校運営の徹底 | 教頭 | 25 | 年間を通じた研修実施計画に基づいた研修を実施する。 | ○勤務規律の確保がなされ、危機管理能力が向上したか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | B | 教職員アンケート Q28肯定群66.7%。 | ・研修計画に基づき実効性のある研修を実施する。 ・外部指導者の招聘により、より客観性を持たせることができるので、検討する。 | B | ・取組の継続・充実を望む(教職員) |
| | | | | | 26 | 各校務分掌部会の定期的な開催とミドルリーダーの報告・連絡・調整を徹底する。 | ○ミドルリーダーを中心とした組織的な取組ができたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | B | 教職員アンケートQ31肯定群88.9%。 | ・教務と相談し、分掌部会の定期部会を確実に開催する。 | B | ・取組の充実を望む(教職員) |
| | | | | | 27 | 安全点検を確実にを行い、速やか修繕をする。 | ○毎月、安全点検を実施できたか。不良箇所については、修繕や対応を考えたか。 ●安全点検を年間10回以上実施。 | A | 安全点検を年間10回以上実施し、不良箇所を把握して、施設の修繕や管理に努めた。教職員アンケートQ32 肯定群100% | ・2階廊下(中庭側)窓の転落防止柵設置がまだできていない。危機管理として市教委への要望を続けていきたい。 | A | 安全対策の要望の継続 風対策(防風林) |
| | | 家庭・地域・関係団体との連携を図る | 山内 | 28 | 学校だより、学年通信を充実させる。 | ○学校や各学年からの情報発信は、十分であったか。 ●保護者アンケート、肯定的評価80% | B | 保護者アンケート肯定群72.3%。各学年において学年通信等で学級の様子などを情報発信することができた。 | 学年通信等での情報発信を定期的に行うなど、より細かな情報発信に心がけ、家庭と学校との連携を深めていく必要がある。 | B | ・取組の継続・充実を望む(教職員) | |
| | | | | 29 | 学校評価の内容・周知方法を工夫する。 | ○周知方法、時期、回数。 ●教職員アンケート、保護者アンケートの記述による。 | B | 保護者アンケートQ1 肯定的評価78.7% 学校評価の公表は、3月に実施する予定であるため、この項目だけでは判断しにくい | ・HPへの掲載について文書等で周知する。 ・PTA役員会やPTA総会で説明する時間を設ける。 | B | ・PTA総会の場の利用(教職員) | |
| 家庭・地域との信頼関係の構築 | 教頭 | 30 | ・小中合同学習会の開催。 ・中学校職員の小学校授業参観の計画(3学期) | ○小学生の学習を支援する異学年交流を通して、中学生の自己有用感を高める機会とすることができたか。 ○小学校への授業参観を計画し、次年度入学予定の生徒の様子を中学校職員が見取る機会を作ることができたか。 ●生徒の振り返り、教職員アンケート、肯定的評価80%以上 | C | 教職員アンケートQ19肯定群37.5%。小学校の授業参観は3学期であり、1、2学期の小中合同学習会や小中合同研修の様子からの結果であると考えられる。学習会は、自己有用感を高める機会となっているが、参加生徒が一部の生徒であったことや合同人権集会を実施しなかったことなどからこのような評価結果になったと思われる。 | 小学校との連携については、内容や実施時期など精選していく必要があるが、ねらいについて共通理解し全職員で行えるものを実施する必要がある。そのためには、1学期に行われたような授業参観後の全体会や部会の流れを確立させ、各部会での小学校との連携による教育活動の展開を行っていきたい。 | B | ・取組の充実を望む(教職員) | | | |
| | | 31 | 学校への要望等に適切に対応し、地域行事へ積極的に参加する。 | ●保護者アンケート、肯定的評価80%以上 | B | 保護者アンケートQ2 肯定的評価78.7% 家庭訪問、期末懇談、学校評価等で要望を集約した。ふるさと教育や生徒会活動を通して、地域貢献活動を行った。 | ・今後とも全職員が、それぞれの持ち場で、保護者・地域にアンテナを張り、信頼関係構築に尽力していく。 (アンケート項目内容の重複を避ける 11との関連) | B | 地域行事に生徒はよく参加している。 | | | |